



GAS MUSEUM がす資料館 ギャラリー第73回企画展

～シリーズ東京真画名所図解 第二回～ 「安治の描く東京の水辺」展

会期: 2015年 1月 4日(日)～ 3月29日(日)

会場: < GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、ギャラリー第73回企画展として、2015年 1月 4日(日)から 3月 29日(日)までの期間、「～シリーズ 東京真画名所図解 第二回～『安治の描く東京の水辺』」展を開催します。

元治元年(1864)に生まれた井上安治(いのうえやすじ)は、15歳で「光線画」の作品で人気を博していた小林清親(こばやしきよか)へ入門しました。翌年の明治13年(1880)には早くも作品を発表し、以後、師の清親の作風を模倣しつつも、自身の感性で捉えた東京風景を描きました。

中でも四ッ切り判サイズを中心とした134点からなる一連の作品は、現在「東京真画名所図解」(とうきょうしんがめいしよずかい)と通称され、明治14年(1881)頃から亡くなる明治22年(1889)まで、井上安治の活動期ほぼ全般にわたって手がけた代表作になります。

当館では134点からなる「東京真画名所図解」シリーズを紹介する第二回として、今回は安治による明治東京の水辺を描いた45点の作品を、その現在の姿を写した写真と共に展示紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

東京真画名所図解 (とうきょうしんがめいしよずかい)

井上安治(いのうえやすじ)がデビューした翌年の1881年(明治14)頃から、亡くなる1889年(明治22)頃までの、活動期ほぼ全般を通じて手がけた安治の代表する作品になります。

まとまって画帳として伝わる作品には幾つもの題名が見えますが、当時の正式な名称は判明しません。現在は「東京真画名所図解」の通称で呼ばれています。

確認されている点数は134点になり、四ッ切り判サイズを中心とした小型の作品では、安治独自の構図のほか、師清親の大判作品を写した作品が多く含まれています。写した作品の多くは、大判から四ッ切り判へと縮小されるのに合わせ、人物の数や配置のほか、季節や時刻を変更し、小サイズの構図と限られた色使いの中にまとめられています。

署名が記された作品もありますが、約半数は無記名で、「探景(たんけい)」「井上探景」と記されている作品は、「探景」の号を使用するようになった1884年(明治17)以降の制作と推測できます。

取り上げられた場所は、現在の赤坂附近を西端に、東は千葉県市川市、北は埼玉県川口市荒川岸边、南は大田区海岸付近と、明治10～20年代の東京の風景を今の私たちに伝えてくれています。

1) 東京真画名所図解 鍛冶橋遠景

井上安治 1881-89年(明治14-22)

外濠川に架けられていた鍛冶橋を、呉服橋方向より眺めた風景です。鍛冶橋は1877年(明治10)に木橋から石橋に改架され、日本橋川と汐留川をつないだ川の流れは、戦後に埋め立てられてしまいます。

現在は東京駅八重洲口の南側、外堀通りの交差点名称に、その名前を見ることができます。

2) 東京真画名所図解 鍛橋夜

井上安治 1881-89年(明治14-22)

3) 東京真画名所図解 鍛橋

井上安治 1888-89年(明治21-22)

両作品とも鍛橋の向こうに第一国立銀行がシルエットで見えるところから、蛸殻町(日本橋小網町)より橋を眺めた風景が描かれています。

1872年(明治5)に開架された鍛橋は木造でしたが、1888年(明治21)に鉄橋へ改架されました。作品の制作時期が橋の姿より推測できます。

4) 東京真画名所図解 鍛橋之景

井上安治 1881-89年(明治14-22)



5) 東京真画名所図解 京橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

6) 東京真画名所図解 葵坂

井上安治 1881-89年(明治14-22)

7) 東京真画名所図解 赤羽根橋景

井上安治 1881-89年(明治14-22)

古川に架かる中之橋附近より、下流の赤羽橋を眺めた風景が描かれています。



作品では、右岸にあった海軍兵器局に物資を運搬するための起重機が描かれており、東京湾から古川を遡り、このあたりまで船で荷物が運ばれていたことが分かります。

8) 東京真画名所図解 萬代橋雨ノ景

井上安治 1881-89年(明治14-22)



9) 東京真画名所図解 神田川駿河台

井上安治 1881-89年(明治14-22)

10) 東京真画名所図解 御茶ノ水

井上安治 1881-89年(明治14-22)

作品は神田上水の掛樋を、神田川左岸のお茶の水付近より眺めた風景で、江戸時代よりその姿は多くの作品に描かれてきました。江戸から明治へと東京の水を神田上水が担っていましたが、新宿淀橋に浄水場が設けられ新しい水道設備が完成すると、1901年(明治34)に廃止されてしまいました。

11) 東京真画名所図解 水道橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)



12) 東京真画名所図解 池の端雪

井上安治 1881-89年(明治14-22)



13) 東京真画名所図解 天王寺下衣川

井上安治 1881-89年(明治14-22)

14) 東京真画名所図解 本所富士見の渡し

井上安治 1881-89年(明治14-22)

両国と柳橋を結ぶ「富士見の渡し」附近を描いた作品です。隅田川右岸より下流を眺め、遠くに見えるのが両国橋と考えられます。

現在の両国橋が架かる場所より、かつては100mほど下流に橋は架けられていました。



15) 東京真画名所図解 柳橋夜景

井上安治 1881-89年(明治14-22)

16) 東京真画名所図解 柳橋

井上安治 1887-89年(明治20-22)

両作品とも、神田川の河口近くに架かる柳橋の夜景が描かれています。

しかし描かれている橋の形状が異なり、作品「柳橋夜景」には1871年(明治4)に架けられた木橋が、作品「柳橋」には1887年(明治20)架設の鉄橋が描かれています。現在の柳橋は1929年(昭和4)に改架され、中央区の区民有形文化財に登録されています。



17) 東京真画名所図解 両国百本杭之景

井上安治 1881-89年(明治14-22)

18) 東京真画名所図解 本所御蔵橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

御蔵橋は、現在の国技館などの場所にあった幕府の御竹蔵(後に米蔵)に、荷を運び入れるための堀に架けられていました。

現在は隅田川岸に水門が見えるほかは、橋があったことを紹介する看板がその名残となります。



**19) 東京真画名所図解 百本杭ノ三日月**

井上安治 1881-89年(明治14-22)

20) 東京真画名所図解 本所割下水

井上安治 1881-89年(明治14-22)

作品名にある割下水(わりげすい)とは、道路の中央へ約3mほどの幅に掘られた排水路のことです。作品は現在の江戸東京博物館などがある、かつての両国の御竹蔵から東に流れる割下水を描いていると考えられます。

この近くで葛飾北斎が生まれたといわれ、割下水の埋め立てられた通りは、現在「北斎通り」と呼ばれています。

21) 東京真画名所図解 大川端石原橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

22) 東京真画名所図解 既橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

23) 東京真画名所図解 枕橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

枕橋を北十間川が隅田川へ注ぐ、河口方向に眺めた風景が描かれています。

安治は枕橋を中心に、この辺りの風景を多くの作品に残しており、この作品とほぼ同じ構図の大判作品も描いています。

現在では河口に水門が築かれ、風景は大きく変わっています。

**24) 東京真画名所図解 本所枕橋ツメ**

井上安治 1881-89年(明治14-22)

25) 東京真画名所図解 小梅八百松

井上安治 1884-89年(明治17-22)

北十間川の河口際、枕橋近くの料亭八百松が描かれています。

1870年(明治3)に、隅田川や墨堤の桜並木が望めるこの地に開業した店は、明治の政財界をはじめ、多くの人々に利用されました。

枕橋と共に関東大震災で焼失してしまい、現在では当時の面影は残っておりません。

26) 東京真画名所図解 小梅

井上安治 1881-89年(明治14-22)

枕橋附近より、北十間川を東に眺めた風景が描かれています。作品左側に見えるのは旧水戸藩邸の堀で、現在の隅田公園になります。

かつてこの辺りは瓦の生産が盛んで、作品には瓦焼きの煙が描かれています。現在は橋向こうにそびえるスカイツリーの姿が目を引きまします。

27) 東京真画名所図解 隅田川夜景

井上安治 1881-89年(明治14-22)

**28) 東京真画名所図解 待乳山夕景**

井上安治 1881-89年(明治14-22)

29) 東京真画名所図解 今戸橋雪

井上安治 1881-89年(明治14-22)

山谷堀に架かる今戸橋越しに、隅田川を眺めた風景が描かれています。

師の清親も、ほぼ同じ構図の作品を描いていますが、清親の作品が夜の風景を描いているのに対して、安治は雪景色に変えて小サイズの作品に仕上がっています。

30) 東京真画名所図解 小梅挽舟の雪

井上安治 1881-89年(明治14-22)

**31) 東京真画名所図解 橋場ノ渡シ**

井上安治 1881-89年(明治14-22)

32) 東京真画名所図解 綾瀬川朝

井上安治 1881-89年(明治14-22)

綾瀬川が隅田川に注ぐ河口付近より、上流の綾瀬橋を眺めた風景が描かれています。

綾瀬川は、1910年(明治43)に東京を襲った大水害を契機に実施された、荒川放水路開削工事のため大きく流れを変え、現在では河口付近のわずかな部分が旧河道として残っています。

33) 東京真画名所図解 川口善光寺

井上安治 1881-89年(明治14-22)

作品では荒川の川向こうに善光寺が見えるところから、荒川右岸からの風景が描かれています。

渡し船の船上に人力車が見えるところが、明治であることを感じさせます。その後、河川の改修や善光寺の焼失などもあり、現在の景色は大きく変わっています。

34) 東京真画名所図解 元柳橋

井上安治 1887-89年(明治20-22)

35) 東京真画名所図解 浜町川岸ヨリ本所一ノ橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

隅田川左岸に注ぐ豎(たて)川河口近くに架かる一之橋を、対岸より眺めた風景が描かれています。

かつては、隅田川の岸際の道から川面や対岸の風景



が望めましたが、現在では堤防の上から出ないと、その風景を見ることはできません。

36) 東京真画名所図解 深川仙台堀

井上安治 1881-89年(明治14-22)



37) 東京真画名所図解 萬年橋ヨリ大橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

38) 東京真画名所図解 新大橋

井上安治 1881-89年(明治14-22)

作品は木造の新大橋を、上流から眺めた風景が描かれています。

橋は1885年(明治18)に西洋風の木橋に架け替えられますが、現在の新大橋は、この場所より上流に移った所に架かっています。

39) 東京真画名所図解 中洲

井上安治 1884-89年(明治17-22)

40) 東京真画名所図解 三ツ又永代

井上安治 1881-89年(明治14-22)



41) 東京真画名所図解 永代遠景

井上安治 1884-89年(明治17-22)

現在の大横川河口近くの越中島公園より、永代橋を眺めた風景が描かれています。

作品が描かれた当時は、永代橋が隅田川河口に最も

近い橋でしたので、橋の下流近くには、海からの大型の船舶が停泊しているのが見て取れます。

42) 東京真画名所図解 佃島

井上安治 1881-89年(明治14-22)

作品では、左手の佃島沖に停泊している大型和船の姿を描いています。

佃島は当時は文字通り隅田川河口に浮かぶ島で、船で行き来をする交通手段しかありませんでした。

1964年(昭和39)に佃大橋が開架されると、江戸時代より住民らの足となってきた「佃の渡し」は廃止されました。

43) 東京真画名所図解 木場

井上安治 1881-89年(明治14-22)

44) 東京真画名所図解 洲崎

井上安治 1884-89年(明治17-22)



45) 東京真画名所図解 大森海

井上安治 1881-89年(明治14-22)

おもな参考文献

井上安治 東京真画名所図解 解題

安藤鶴夫・吉田漱 平凡社 1968年

色刷 明治東京名所絵 井上安治画

木下龍也編 角川書店 1981年

清親と安治 光線画の時代

山口県立萩美術館・浦上記念館 2012年

謎解き浮世絵叢書 小林清親 東京名所図

(株)二玄社 2012年

井上安治生誕一五〇年記念 絵師たちの視線

茅ヶ崎市美術館 2014年

中央区の橋・橋詰広場 中央区委員会 1998年

図版 明治の地図で見る 鹿鳴館時代の東京 (株)学習研究社 2007年

東京の橋 石川悌二 (株)新人物往来社 1977年

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。

次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客様情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》